



けいせん

2015.6.30



昨年の冬休み、1月1日のこと。「1年の言ひは元旦にあり」と意気込んだのか
 ため込みにこの日に思いついたので、少々にまわって漢字の宿題をやり始めた息子。
 「なんでわざわざ今日に?」と思いつつも、「1年のはじめに、自分から勉強するなんて
 すばいね」と声をかけ、様子を見ていました。ゆっくりじっくり、丁寧すぎる程に書いては
 消し、書いては消し... 当然! ため込みに進みません。きれいにきちんと書くのはよいこと
 なのに、ため込みにため息をつく私。

それから半年たった最近のこと。宿題はあつという間に終わっているけれど、
 あの丁寧さほどには行っていないやら。もう少しゆっくり書けばいいのに、と思う私。
 そして、次の日の用意もせず、本を読んだりテレビを見たり金魚のお世話をする姿に、
 おべきことを先にすればいいのに! といらいる私。

でも、やっと気がつきました!! 知と彼(息子)は別人格だということに。これまで
 わかっていたつもりでしたが、本当はわかっていたなからにことに、7年かかって気がつきました。
 ため息をつくの、～すればいい、と思うの、いらいる子の、
 「私ならこうするの」という
 思い込みがあったから。もちろん全てわが子のため、という愛情からだったのですが、
 どうやら余計なお世話どころか私自身にとつてもマイナスだったようです。それは気づくと
 少しラクになりました。「なんでこんなことするの?」は、怒りではなく疑問にたり、
 「そんな考えがあつんだ?」「そういう風に思っているのね」と知ることができ、更に一糸着
 言をして、一糸着に笑えることも。毎日たのしくおぼやかに...とはまだまだ程遠い
 ですが、私のことも彼のことも見つめなおす良い機会となりました。そして彼の一言。
 「いろいろ言われてはわからなくなるし、しにくくなるよ。自分でちゃんと考えよう!」

子どもは子どもの思いがある。力がある。それを信じなければ!!

